



仕事への意識を高めた、ユニフォームプロジェクト。

「地域に信頼される良質な医療の提供」を理念に掲げ、地域がん診療連携拠点病院や災害拠点病院に指定されるなど、地域医療の拠点となっている西脇市立西脇病院。今回は一新したユニフォームについて、看護局長の小林孝代さんと、ユニフォームプロジェクトチームのみなさんにお話を伺いました。



試着は80着以上、院内ファッションショーも開催。

10年ぶりに、ユニフォームを一新されたとお聞きしました。

ユニフォームのリニューアルは、私が看護局長になるときの公約でした。せっかく新しくするのだから、これから活躍する若い人たちが自分たちが着たいものを選ぶべきだと思い、若手スタッフ男女9名に声をかけて、プロジェクトチームを作りました。

プロジェクトの具体的な流れを、教えていただけますか？

「着てみたくなる・着ると気分が高揚する、機能的力が発揮できる、幅広い年齢やサイズに対応できる白衣」というテーマに合わせてサンプルを選び、試着して絞り込んだ6着を院内のファッションショーで公開し、投票で決定しました。いろいろなカタログから、80着ぐらい取り寄せて試着したと思います。ファッションショーは院内の講堂にランウェイを作って、チームメンバーがモデルを務めました。看護局全員と病院幹部職の約330名が投票し、その中から1位になったのが、いま着ているローラ アッシュレイのユニフォームです。チーム発足から決定まで、約1年半かかりました。

病院をあげた、一大プロジェクトだったんですね。

上の者が選べば早いですが、自分たちが着るものを、自分たちで選ぶという経験はとても有意義だったと思います。この病院にふさわしい装いを考えることで、仕事や役割を再認識する機会にもなりました。「ユニフォームだけが美しくもダメ、これを着るなら身だしなみや振る舞いもきちんとしなくては!」という意識が芽生えたのも、大きな成果ですね。ドキドキハラハラしたことも多々ありましたが(笑)、若手に任せて良かったと思います。

プロジェクトの企画書にも、「西脇病院の職員として、誇りを持って生き生きと輝けるユニフォーム」と書かれています。

西脇病院は、「地域の宝」として支えていただいている病院です。以前この病院の小児科医が1人になってしまったとき、地域のみなさんが「先生や看護師さんたちが気持ちよく働ける病院であるよう支援しよう」と立ち上がっていただきました。だから、ここで働く私たちが、その想いに応えて、地域の宝の病院で働くにふさわしくならなければならないと思っています。

病院が患者さんを守るだけでなく、地域の方が病院を守ってくださったんですね。

そうですね。地域のみなさんとの交流の場として毎年「西脇病院フェスタ」を開催していて、10周年記念フェスタの際は、約3,500人の方が来ていただきました。子供たちがキッズサイズのユニフォームを着て写真を撮影できるコーナーがあるのですが、今年は新しいものに間に合わなくて、以前のものだったんです。みんな楽しみにしているので、来年はぜひこのユニフォームを着せてあげたいですね。



デザインと機能にこだわって、80着の中から選んだ1着。

地域の子供たちも、新しいユニフォームを楽しみにしてくれているんですね。

毎年西脇市の全中学校から中学生が、近隣の高校4~5校から高校生がふれあい看護体験に来るのですが、「これ着せてもらえるの?」ってみんな喜んでくれますよ。看護実習に来る学生からも好評です。プロジェクトチームは、「誰もが着てみたくなるユニフォーム」をテーマにしていたので、まさにその想いがかかっていると思います。

では続いて、プロジェクトチームのみなさんに、現在のユニフォームを選んだ理由や、実際の着心地などについてお聞きしました。

畑中さん：クリーム色のようなやさしい色合いで花柄も主張しすぎず、清潔感があってやわらかいイメージが気に入りました。サイドや後ろ姿のシルエットもきれいに見えます。
藤井さん：上着の丈がお尻にかかるくらいでちょうど良く、ポケットも深くたくさん入り、小物ポケットがあるのも便利です。

田中さん：カタログを見た時に、「これがいい!」と思いました。実際に着てみても花柄がさりげなくて可愛いし、しゃがむことも多いですが、伸縮性があるので仕事もしやすいです。

安平さん：ローラ アッシュレイのブランドに惹かれました。80着以上サンプルを見ましたが、素材の質感や白の上品さなど、他とは全く違いました。襟や袖など細かい部分までデザインも素敵です。

岡崎さん：まっ白ではないので、患者さんから見るときもやさしい印象だな、と思いました。肌ざわりも快適です。白衣を着ると日常との切り替えができますが、それが自分の気に入ったものだ、よりモチベーションが上がりますね。

みなさんに選んでいただけたことを、私たちが誇りに思います。伺ったご意見も参考に、これからも喜んでいただけるユニフォームを作り続けます。